

進路と学習を考える

前高ジャーナル



発行 群馬県立前橋高等学校

(編集 進路指導部)

〒371-0011 群馬県前橋市下沖町 321-1

TEL: 027-232-1155 FAX: 027-233-1046

Email: maebashi-hs@edu-g.gsn.ed.jp

2023 年度大学入試を振り返って

◆2023 入試トピック◆

○大学入学共通テスト3年目 平均点アップ

○新型コロナウイルス感染症の影響縮小

1. 大学入学共通テスト

新型コロナウイルス感染症の第8波の流れの中、令和5年1月14日(土)・15日(日)の日程で大学入学共通テストが行われた。志願者数は5年連続減少となった。東京、神奈川、千葉では減少数が多く有力私立大を志望し共通テストを敬遠していると考えられる。また、出願者の現役占有率、女子占有率は過去最高だった。全般的にセンター試験の頃に比べて問題文の分量の増加は継続している。数学はⅠ・A、Ⅱ・Bともに平均点が大幅にアップした。一方で国

語、英語(リーディング)で平均点がダウンした。理科②では化学、生物で得点調整が行われた。ベネッセ・駿台の予想では、900点満点の平均点で文理系ともアップとなっている。文系は24点、理系は38点のアップであり、大幅難化した2022年入試から水準を戻した。

前高生の受験会場は高崎健康福祉大学だった。266名が受験し前高生の5教科平均点もアップした。

【表1】5教科(900点満点)平均点

年度	全国*		前高	
	文系	理系	文系	理系
2019	570	576	671.0	675.6
2020	548	559	665.4	638.4
2021	552	572	670.5	670.3
2022	508	513	612.9	613.1
2023	532	551	631.7	645.2

*全国平均はベネッセ・駿台による推測値

2023理系は得点調整後

【表2】主要科目の平均点<全国>

年度	2022	2023	差
国語	110.3	105.7	-4.5
世界史B	65.8	58.4	-7.4
日本史B	52.8	59.8	6.9
地理B	59.0	60.5	1.5
数学ⅠA	38.0	55.7	17.7
数学ⅡB	43.1	61.5	18.4
物理	60.7	63.4	2.7
化学	47.6	54.0	6.4
生物	48.8	48.5	-0.4
英語(リーディング)	61.8	53.8	-8.0
英語(リスニング)	59.5	62.4	2.9

大学入試センター発表資料による

理科② 化学 生物 は得点調整後の数値

2. 国立大学二次試験

全国の動向として国立大学の志願者は微減だった(【表3】)。難関国立10大学の全体の志願者数は前年並みであった。その中で新設の一橋大ソーシャル・データ

【表3】国立大学志願状況(独自日程は除く)<全国>

設置	2022年度			2023年度			志願者前年比
	募集人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者数	倍率	
国立	76,599	302,953	4.0	76,327	298,305	3.9	-4,648
公立	22,024	125,670	5.7	22,388	124,826	5.6	-844
計	98,623	428,623	4.4	98,715	423,131	4.3	-5,492

駿台資料による

サイエンスは人気が高かった。その他の国立大では横浜国立大の志願者増が際立っている。公立大では統合して2年目の入試だった大阪公立大で志願者を増やした。高崎経済大学の地域政策も志願者を増やした。

前高現役生の国公立大学合格状況と難関国立10大学合格状況についてまとめた(【表4・5】)。現役国公立大合格者数は138名であった。例年以上に第1志望大学への受験に挑戦

した印象があり頼もしく感じている。全国的にも成績上位層は逃げずに最難関大に挑戦する傾向があり、前高もこの流れを守っている。東大現役合格者は3名だった。医学科現役合格者は19名であり高水準の合格状況となった。

既卒生も東大2名合格、国立大医学部医学科9名合格など健闘した。

3. 私立大学一般入試

私立大学の一般選抜入試(推薦・AO入試等の特別選抜入試を除く)の延べ志願者数は約315万人と推定され、昨年から微減となった。背景として受験人口全体の縮小や競争緩和による併願校数の減少が考えられる。志願者の増加数が最も多かった大学の1つは明治大学で特に経営学部には大幅な増加があった。

前高の卒業生総数に対する私立大学出願数は約4.2で昨年から微減となった。前高の卒業生総数に対する大学合格者実数の割合は85%であり高い水準を保っている。面談を重ねる中で私立大学を含めた志望校群がよく練られていることによる好結果と考えられる。

【表4】国公立大学合格状況<前高>

設置	現浪	2019	2020	2021	2022	2023
国立	現	154	148	143	165	127
	浪	62	58	33	32	34
公立	現	11	22	13	18	11
	浪	7	8	3	4	3
計	現	165	170	156	183	138
	浪	69	66	36	36	37

令和5年4月作成「進路概況」による

2019, 2020 は 8 クラス, 2021以降は 7 クラス

【表5】難関国立10大学合格状況

(数字は現役+既卒生(現役)。-は出願なし。)

大学	2019	2020	2021	2022	2023
北海道大	4(2)	7(6)	6(5)	9(4)	6(2)
東北大	24(18)	22(18)	16(15)	23(22)	13(10)
東京大	7(6)	5(1)	7(4)	11(10)	5(3)
東京工業大	1(1)	1(1)	2(2)	3(3)	1(1)
一橋大	2(2)	2(1)	1(1)	1(1)	1(1)
名古屋大	2(1)	2(1)	2(1)	3(2)	3(2)
京都大	13(10)	5(5)	7(6)	8(5)	7(7)
大阪大	2(1)	6(5)	2(2)	2(2)	0(0)
神戸大	1(1)	-	-	1(1)	2(1)
九州大	-	-	1(1)	-	1(-)
計	56(42)	50(38)	44(37)	61(50)	39(27)

令和5年4月作成「進路概況」による

今年4月作成の「進路概況」の一部を前高 Web ページに掲載しています。また、6月発行予定の『進学の手引』資料編に全データを掲載します。

あの向こうの、 もっと向こうへ

令和4年度第3学年主任 平田 孝洋

「私たちの高校生活はスロースタートでした。緊急事態宣言に伴う家庭学習期間、新たな仲間と親睦を深める新入生オリエンテーションの中止や分散登校。勉強も通常に比べると遅れ、部活動も思うようにできませんでした。不安ばかりが募り、高校生活を満喫することもままならず、歯がゆい思いでいっぱいでした」

卒業式で代表の相澤拓斗が語ったように、今春卒業の生徒諸君の高校生活は新型コロナの脅威と共に始まった。そして、その後も彼らの高校生活は我々大人が思い描いたような青春とはならなかった。実にまるまる3年間をその渦中で過ごすことになってしまった。学業は出鼻を挫かれ、部活動も練習時間の縮小や大会の中止が相次いだ。蛟龍祭・優曇華・定期戦の三大行事では通常開催を一度も味わえなかった。だが、彼らは手もなく青春を奪われはしなかった。時代の要請に応じて趣向を凝らし、自分たちなりの幸せの形を追い求めてそれを実現していった。



入学直前直後の休校に分散登校。静まった教室はやはり寂しかった。7月によく校内競技大会が実施でき、明るく健やかにプレーする生徒たちの勇姿や笑顔に励まされた。秋には部活動の大会も復活し始めた。高校生活に活気が戻るにつれて学業も徐々に軌道に乗っていった。やはり前高生は、学業・部活動・行事すべてに全力で取り組める環境でこそ燃える、本領を発揮するものだと感じた。

2年の春夏、校内開催とはいえ蛟龍祭と優曇華が行えたことは大いなる喜びだった。校内競技大会にも駅伝や水泳が復活し、「絶対王者」「必勝前橋」という御旗の下で、さあ俺たちも先輩の後に続けと定期戦勝利への熱意が急速に高まった。修学旅行の代替行事として企画し、学年を3分割して宮城・福島・石川の3県を訪ねた宿泊研修は県内ではかつて例がない初の試みであった。部活動や探究活動でも活躍が目立った。囲碁部、山岳部、科学・物理部、陸上競技部、軟式野球部等をはじめ、多く

の生徒たちが全国や関東といった大舞台に立った。生徒たちはこうした熱気をこそ渴望して前高に来たのだと改めて実感した。



最高学年になって、過去に例のない2年連続の蛟龍祭に臨んだ。チケット制に加えて外部入場管理システムをもって観客数を把握し、入場数をコントロールする試みは斬新だった。中庭での大団円、そして観衆を巻き込んだのワッショイは実に感動的だった。秋の定期戦でも、実長の松村息吹を核として3年生はよくまとまりリーダーシップを大いに発揮した。惜しくも定期戦勝利には手が届かなかったが、一般対抗だけなら高高に大きく勝ち越し意地を見せつけた。その後も、ライバルでもあるよき仲間たちとともに、学業においても集中力を発揮して素晴らしい結果を残してくれた。



近年「リスクリング」という言葉を聞くが、これを私は、コロナ禍の新しい高校生活様式という難局によく対応し成長し続けた卒業生諸君の姿に重ねて見ていた。与えられたツール ChromeBook を駆使して新たなコミュニケーションの形を模索し、自らの知識や技術を高めて時代にうまく応じた。前高の伝統を紡ぐとともに、新たな歴史の礎をも作ってくれたように思う。大学に入っても、前高で培った気概や教養を武器として、アンテナを全開に張って時代の趨勢を捉え、もっともっと向こうへ向こうへと自らの活躍の地平を広げて行って欲しいと切に願う。

最後に、素晴らしい生徒と先生方に恵まれ、充実した幸せな3年間を送ることができました。この場を借りてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。